

# VersaStack with Cisco UCS Director 5.4 v1

最終更新日: 2016年6月21日

## このソリューションについて

VersaStack は、クラウド、ビッグデータ、およびエンタープライズ アプリケーションの展開に高いレベルの容易性、効率性、および汎用性をもたらします。動的な組織は、コストを抑制・削減しながら、成長を加速させたいと考えています。これを実現するには、アプリケーションの展開期間を短縮し、優先順位の変化にも迅速に対応する必要があります。VersaStack ソリューションは、IT インフラストラクチャの展開を促進するものです。ビジネスの変化に適応する能力を維持しつつ、情報とリソースの管理の効率化によってコストを削減します。

VersaStack ソリューションは、Cisco UCS Integrated Infrastructure の革新性と IBM Storwize ストレージ システムの効率性を組み合わせたものです。Cisco UCS Integrated Infrastructure には、[Cisco Unified Computing System \(Cisco UCS\)](#)、[Cisco Nexus](#) および [MDS スイッチ](#)、[Cisco UCS Director](#) が含まれます。

## このデモンストレーションについて

この事前設定済みデモンストレーションでは、管理のシナリオとエンド ユーザのシナリオを扱います。

### 管理のシナリオ

- [シナリオ 1: 統合ダッシュボードの概要](#)
- [シナリオ 2: SAN ブートを使用した ESXi ベアメタルのプロビジョニング](#)
- [シナリオ 3: テナント オンボーディング](#)
- [シナリオ 4: 新しいストレージのプロビジョニング](#)

### エンド ユーザのシナリオ

- [シナリオ 5: 仮想マシンの注文](#)
- [シナリオ 6: LAMP スタック アプリケーションの注文](#)
- [シナリオ 7: VM ライフサイクル管理](#)

### オプションのシナリオ

- [付録 A: シナリオのロールバック](#)

## デモンストレーション プロファイルと連絡先リンク

### 関連情報

- このデモンストレーションのコンテンツについては、Cisco dCloud (<https://dcloud-cms.cisco.com/?p=23532> [英語]) を参照してください。
- 詳細およびトレーニング資料については、Cisco dCloud のヘルプ ページ (<https://dcloud-cms.cisco.com/help> [英語]) にアクセスしてください。
- 利用できるすべての Cisco dCloud デモを確認するには、<https://dcloud.cisco.com> [英語] にアクセスしてください。

- お客様の地域のテクニカル リードまたはビジネス開発マネージャにお問い合わせの際は、<https://dcloud-cms.cisco.com/help/dcloud-data-center-virtualization-contacts> [英語] を参照してください。

## 制約

この VersaStack デモンストレーションには、いくつかの制約があります。

- エンドユーザのシナリオまたはシナリオ 4 をすぐに実施する場合は、まずテナントを作成してください(シナリオ 3)。
- このデモのインフラストラクチャは複数のユーザ間で共有されるため、UCS、IBM v7000、MDS、Nexus 9000 に対する管理者アクセスは付与されません。

## 要件

次の表に、このデモンストレーションの要件の概要を示します。

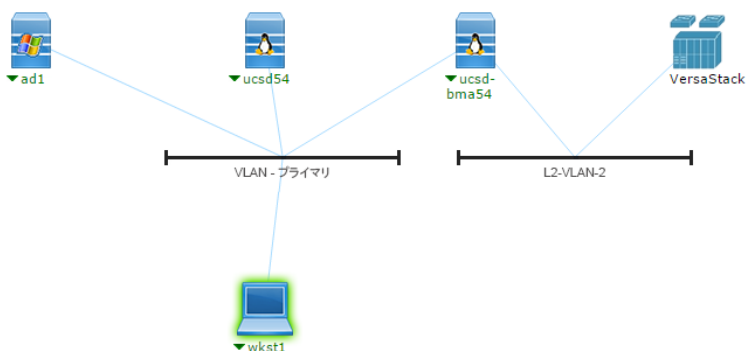
表 1. 要件

必須	オプション
<ul style="list-style-type: none"> <li>ラップトップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco AnyConnect®</li> </ul>

## トポロジ

このコンテンツには、スクリプト形式のシナリオと、ソリューションの機能を実例で示すために事前設定された管理ユーザとコンポーネントが含まれています。コンポーネントのほとんどは、管理ユーザ アカウントを使用して任意の設定が可能です。コンポーネントへのアクセスに使用する IP アドレスとユーザ アカウント認証は、アクティブ セッションの [トポロジ (Topology)] メニューのコンポーネント アイコンをクリックして確認するか、それらを必要とするシナリオ内のステップで確認できます。

図 1. dCloud のトポロジ



## はじめに

### プレゼンテーションの前に

Cisco dCloud では、実際の対象者の前でプレゼンテーションを行う前に、アクティブなセッションを使用して、このドキュメントのタスクを実施しておくことを強く推奨します。そうすることで、ドキュメントとコンテンツの構成に慣れることができます。

場合によっては、環境を元の構成にリセットするため、このガイドに従った後に新しいセッションをスケジュールする必要があります。

**プレゼンテーションを成功させるためには、入念な準備が不可欠です。**

次の手順に従ってコンテンツのセッションをスケジュールし、プレゼンテーション環境を設定します。

1. [dcloud.cisco.com](https://dcloud.cisco.com) にアクセスして、最寄りのロケーションを選択し、Cisco.com クレデンシャルでログインします。
2. セッションを予約します。[\[手順を見る\]](#)
3. 接続をテストします。[\[手順を見る\]](#)
4. [マイ ダッシュボード(My Dashboard)] > [マイ セッション(My Sessions)] でセッションのステータスが [アクティブ (Active)] であることを確認します。

**注:**セッションがアクティブになるまで最長で 10 分かかることがあります。

5. [表示 (View)] をクリックしてアクティブなセッションを開きます。
6. 最適なパフォーマンスを得るため、**Cisco AnyConnect VPN** [\[手順を見る\]](#) およびラップトップのローカル RDP クライアント [\[手順を見る\]](#) を使用してワークステーションに接続します。
  - ワークステーション 1: **198.18.133.36**、ユーザ名: **DCLOUD\demouser**、パスワード: **C1sco12345**

**注:** Cisco dCloud リモート デスクトップ クライアントを使用してワークステーションに接続することもできます [\[手順を見る\]](#)。dCloud リモート デスクトップ クライアントは、最小限の操作でアクティブ セッションにアクセスする場合に最適です。ただし、接続やパフォーマンスに問題が生じることがあります。

7. Google Chrome ブラウザを開き、**UCS Director** にログインします (**admin/C1sco12345**)。

## シナリオ 1. 統合ダッシュボードの概要

Cisco UCS Director では、カスタマイズされたセルフサービスのプロビジョニングや、ビジネス ポリシーに準拠したクラウド サービスのライフサイクル管理が可能です。Cisco UCS Director は、管理者、開発者、ビジネス ユーザに権限を与え、事前定義したユーザ固有のメニューから、新たな IT サービスのリクエストや既存のコンピュータ リソースの管理を行うことができるセキュア ポータルを提供します。また、管理者とアーキテクトは、ライブラリ内に事前定義されたタスクをワークフロー デザイナで使用することにより、複雑な自動化タスクを開発できます。この統合ダッシュボードにより、管理者は組織の使用状況や傾向、使用容量などの詳細な情報を完全に把握することができます。

このシナリオでは、統合ダッシュボードの詳細を確認します。

## ステップ

このセクションでは、管理者が使用できる多数のオプションのいくつかを中心に取り上げます。

### [ダッシュボード(Dashboard)] メニュー


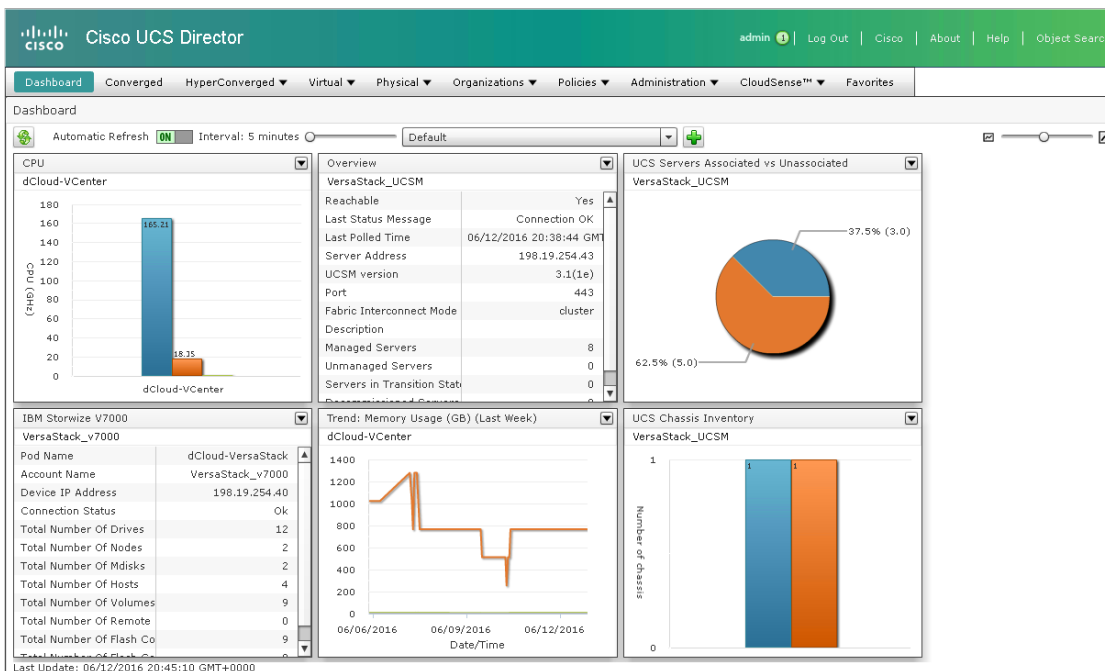
- ダッシュボードはすべてカスタマイズすることができます。
- ダッシュボードで使用できるさまざまな事前設定済みウィジェットを紹介し、以下の操作を簡単に実行できることを示します。
  - スライド バー (  ) を使用して、ダッシュボードに表示されるレポートのサイズを調整する
  - ウィジェットを移動する
  - ウィジェットのさまざまなオプションを表示、変更する
  - グラフ エLEMENT にマウス ポインタを合わせ、ポップアップ ツールチップを表示する

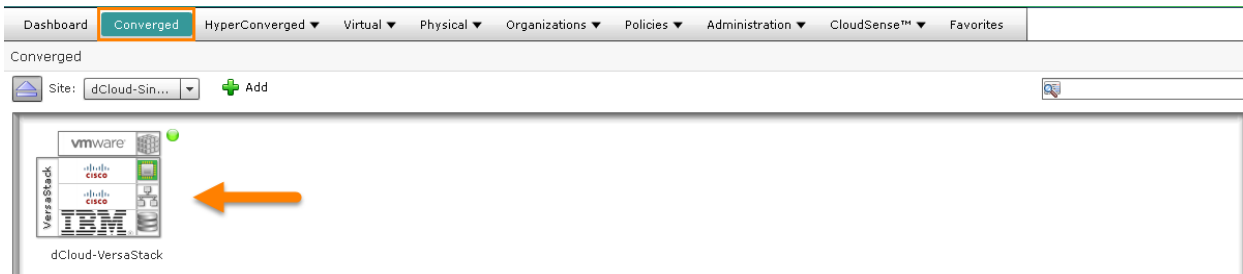
図 2. [ダッシュボード(Dashboard)] - 管理者ビュー



## [コンバージド(Converged)] メニュー

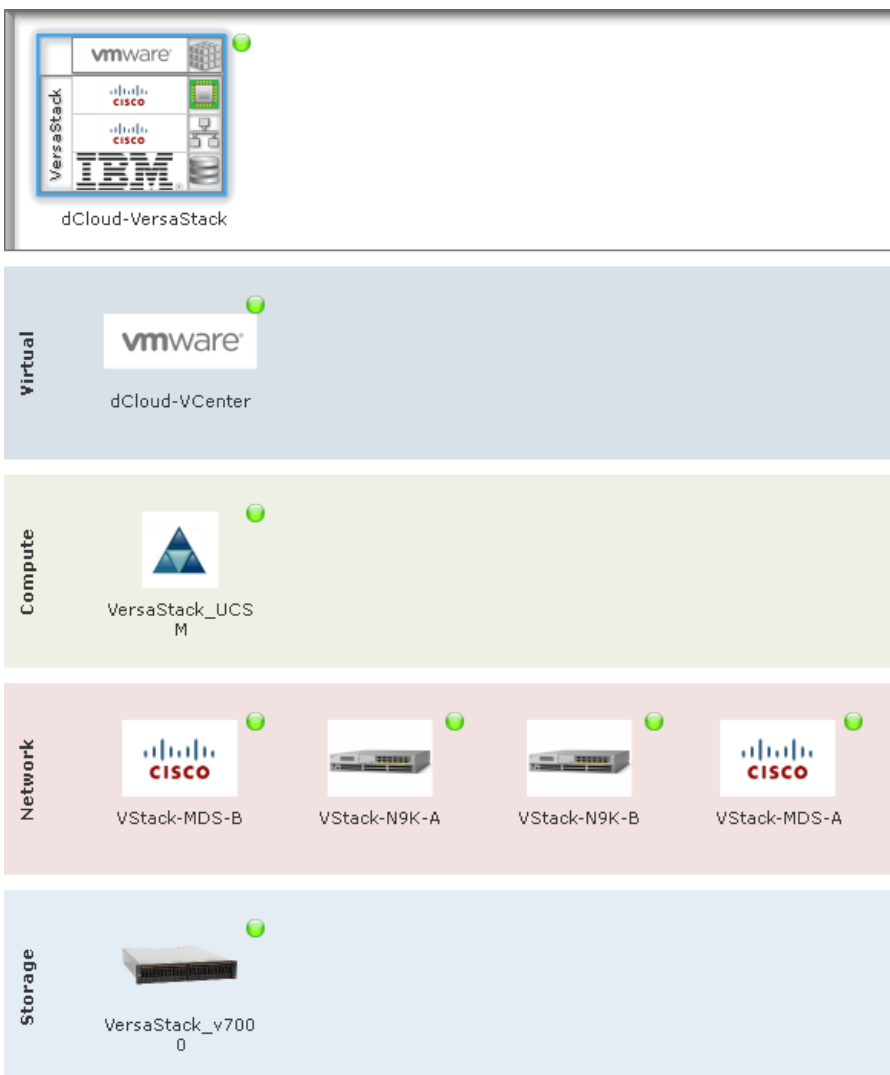
1. メニュー バーの [コンバージド(Converged)] を選択します。
2. [dCloud-VersaStack] アイコンをクリックします。

図 3. dCloud Datacenter



3. dCloud-VersaStack で使用できるコンポーネントを表示します。

図 4. dCloud Datacenter スタック

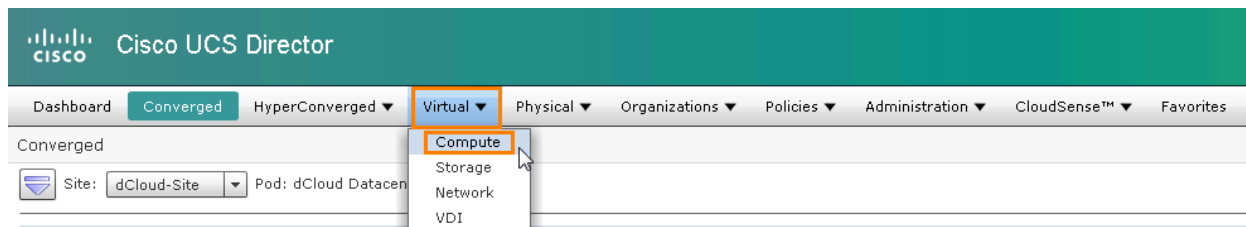


4. dCloud-VersaStack スタックから、[仮想 (Virtual)] セクションにアクセスし、コンポーネント [VMware] をダブルクリックします。
  - いくつかのタブをクリックして仮想管理までドリルダウンする方法について説明します。
  - 戻る(◀) ボタンをクリックして、dCloud-VersaStack スタックに戻ります。
5. dCloud-VersaStack スタックから、[コンピューティング (Compute)] セクションにアクセスし、コンポーネント [VersaStack\_UCSM] をダブルクリックします。
  - 物理 UCS シャーシ管理までドリルダウンする方法について説明します。
  - 戻るボタンをクリックして、dCloud Datacenter スタックに戻ります。
6. dCloud-VersaStack スタックから、[ネットワーク (Network)] セクションにアクセスし、Vstack コンポーネントの 1 つをダブルクリックします。
  - デバイス管理までドリルダウンする方法について説明します。
  - 戻るボタンをクリックして、dCloud-VersaStack スタックに戻ります。
7. dCloud-VersaStack スタックから、[ストレージ (Storage)] コンポーネントにアクセスし、コンポーネント [VersaStack\_v7000] をダブルクリックします。
  - ストレージ デバイスまでドリルダウンする方法について説明します。

#### [仮想 (Virtual)] メニュー

トップメニューで [仮想 (Virtual)] をクリックして、[仮想 (Virtual)] メニューを表示します。

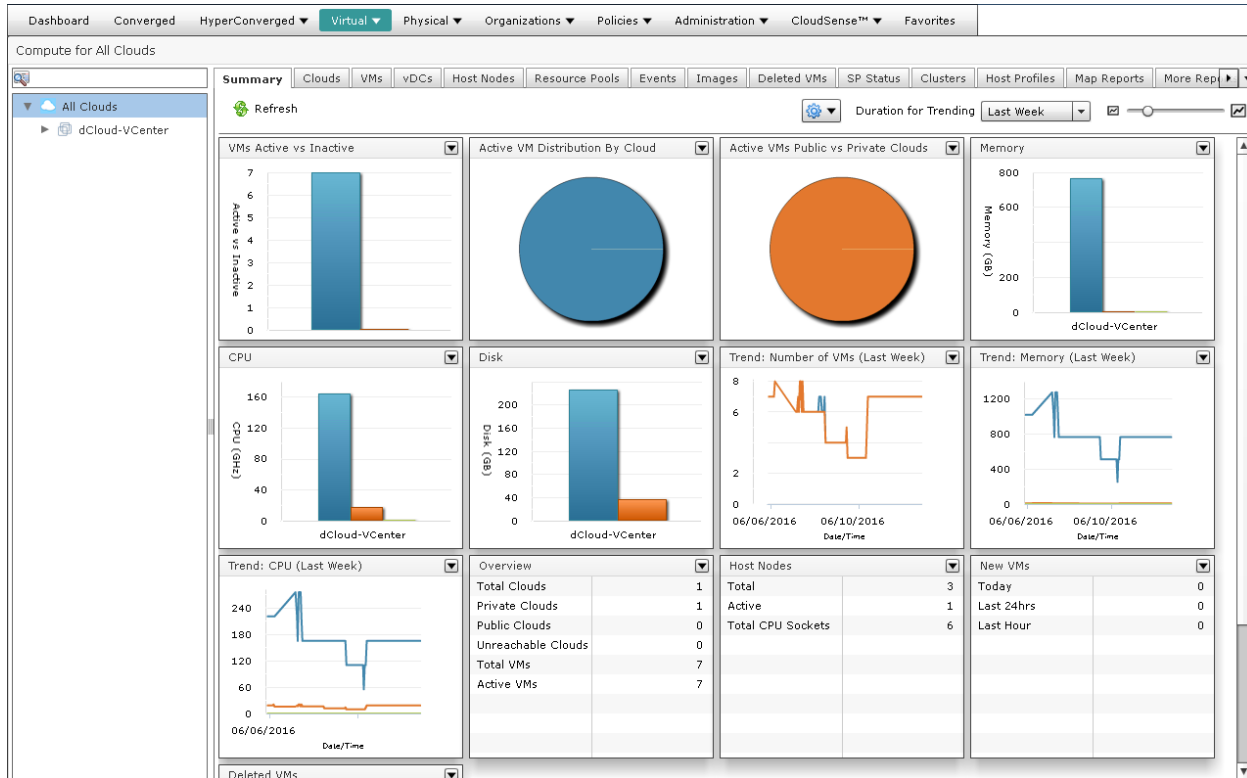
図 5. [仮想 (Virtual)] メニュー



[仮想 (Virtual)] メニューには、[コンピューティング (Compute)]、[ストレージ (Storage)]、[ネットワーク (Network)]、[VDI] という 4 つのサブメニューがあります。サブメニューを順にクリックし、使用できるオプションと機能を説明します。推奨される説明の要点は、次のとおりです。

- VM のライフサイクル運用
- アクティブな VM の詳細なコンポーネント
- 一般的なライフサイクル運用とインフラストラクチャ コンポーネント
- 作成された VM スナップショットの概要とスナップショットに対して実行できる操作
- ストレージ使用率マップ

図 6. [仮想 (Virtual)] メニュー &gt; [コンピューティング (Compute)]

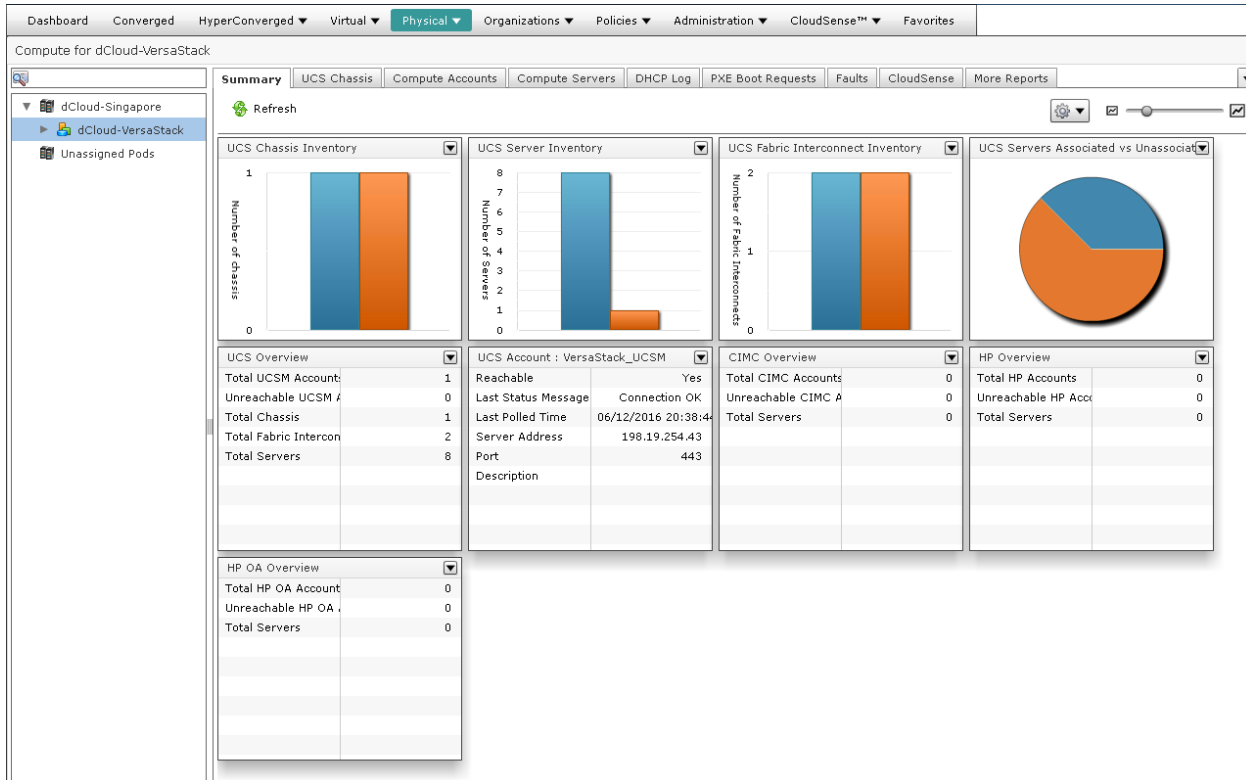


### [物理 (Physical)] メニュー

[物理 (Physical)] メニューには、[コンピューティング (Compute)]、[ストレージ (Storage)]、[ネットワーク (Network)] という 3 つのサブメニューがあります。サブメニューを順にクリックし、お客様の関心に基づいて使用できるオプションと機能を説明します。推奨される説明の要点は、次のとおりです。

- 物理インフラストラクチャのモニタリング
  - シャーシとサーバの詳細
  - ストレージの詳細情報
  - 物理ネットワークの詳細: VTP、プライベート VLAN、ポート プロファイル、VSAN、VLAN
  - SAN ゾーンセット、SAN ゾーン、QOS ポリシー マップ、QOS クラス マップ
1. トップメニューで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
  2. 横にあるナビゲーションバーで [dCloud サイト (dCloud-Site)] を展開し、[dCloud-VersaStack] をクリックします。

図 7. dCloud-VersaStack の [Physical(物理)] &gt; [Summary(サマリー)]

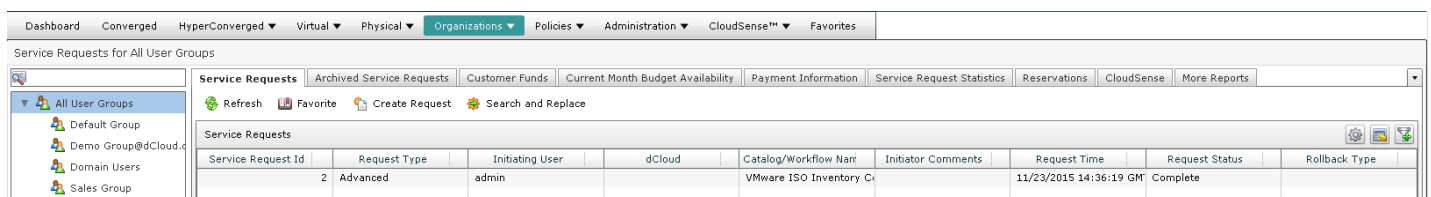


## [組織(Organizations)] メニュー

[組織(Organizations)] メニューには、[サービス要求 (Service Requests)]、[承認 (My Approvals)]、[サマリー (Summary)]、[仮想リソース (Virtual Resources)]、[物理リソース (Physical Resources)]、[チャージバック (Chargeback)] という 6 個のサブメニューがあります。サブメニューを順にクリックし、お客様の関心に基づいて使用できるオプションと機能を説明します。推奨される説明の要点は、次のとおりです。

- 完了したサービス要求のワークフロー ステータス、ログ、作成または変更されたオブジェクト
  - 正常に完了したリクエストに対するサービス要求ロールバック機能
  - 失敗したリクエストに対するサービス要求再送信機能
- トップ メニューで、[組織 (Organizations)] > [サービス リクエスト (Service Requests)] の順にクリックします。
  - [サービス要求 (Service Requests)] をダブルクリックして、ワークフローを表示します。

図 8. [すべてのユーザ グループ (All User Groups)] の [組織 (Organizations)] メニューのサービス要求



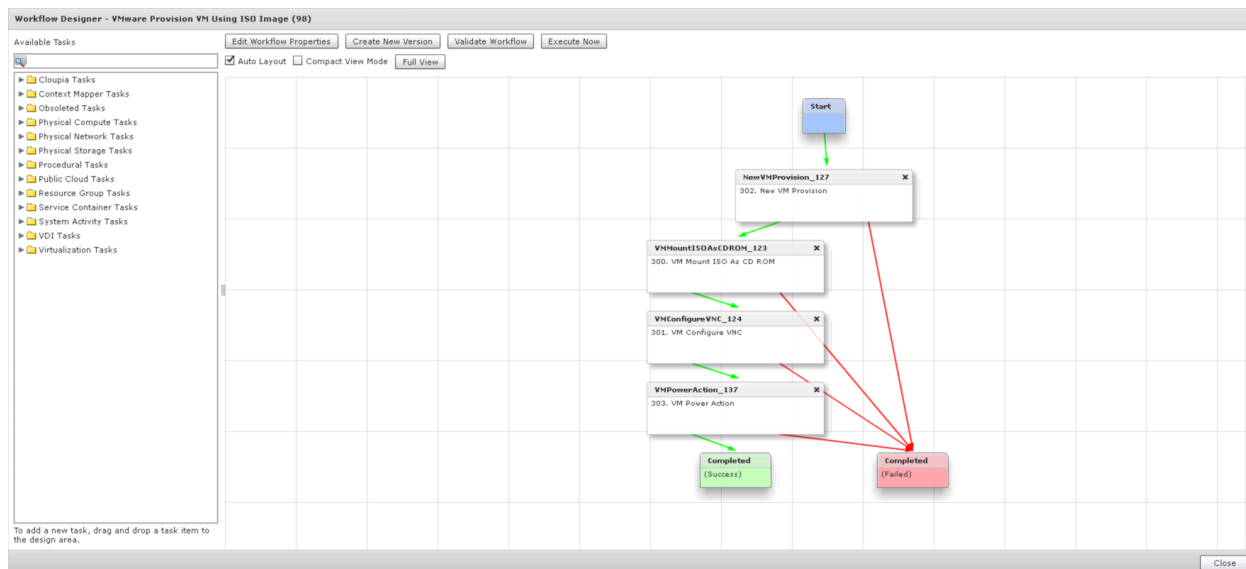


## [ポリシー (Policies)] メニュー

[ポリシー (Policies)] メニューには、[カタログ (Catalogs)]、[アプリケーション コンテナ (Applications Containers)]、[仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)]、[物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)]、[タグ ライブラリ (Tag Library)]、[リソース グループ (Resource Groups)]、および [オーケストレーション (Orchestration)] という 7 つの主要なサブメニューがあります。サブメニューを順にクリックし、お客様の関心に基づいて使用できるオプションと機能を説明します。推奨される説明の要点は、次のとおりです。

- インポートおよびエクスポート機能、より多くの事前設定済みワークフローをインポートする機能
- タスク ライブラリ
- タスクのドラッグによる、オーケストレーション フローの変更
- ユーザが入力できるパラメータの管理制御
- タスクの成功または失敗したアクションにマウス ポインタを合わせてつなぎ直す
- VM とパラメータを選択してトリガーを編集し、ルールを作成する

図 9. [オーケストレーション (Orchestration)] > [ワークフロー (Workflows)] タブ > [VMProvisioning] で [VMProvisioning のセットアップ (VMProvisioning Setup)] をダブルクリック



## [管理 (Administration)] メニュー

[管理 (Administration)] メニューには、[ガイド付きセットアップ (Guided Setup)]、[ライセンス (License)]、[システム (System)]、[ユーザとグループ (Users and Groups)]、[仮想アカウント (Virtual Accounts)]、[物理アカウント (Physical Accounts)]、[統合 (Integration)]、[モバイル アクセス (Mobile Access)]、[ユーザ インターフェイス設定 (User Interface Settings)]、[オープン オートメーション (Open Automation)]、および [サポート情報 (Support Information)] という 11 個のサブメニューがあります。サブメニューを順にクリックし、お客様の関心に基づいて使用できるオプションと機能を説明します。

図 10. [管理(Administration)] > [ユーザおよびグループ(Users and Groups)] > [ユーザ(Users)]

Status	Login Name	First Name	Last Name	Access Level	User Group	Contact Email Address	User Principal Name	Source	LDAP A
Enabled	admin			System Admin		cucsdxternal@dcloud.cisco.com	cucsdxternal@dcloud.cisco.com	Local	
Enabled	infraUser			System Admin				Local	

### [CloudSense] メニュー

[CloudSense] メニューには、[レポート(Reports)]、[評価(Assessments)]、および [レポートビルダー(Report Builder)] という 3 つのサブメニューがあります。サブメニューを順にクリックし、お客様の関心に基づいて使用できるオプションと機能を説明します。

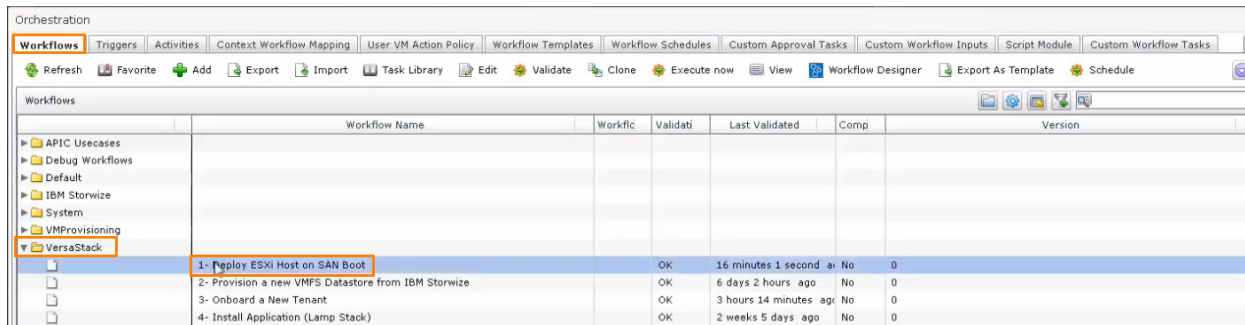
これで、このシナリオの操作は終わりです。

## シナリオ 2. SAN ブートを使用した ESXi ベアメタルのプロビジョニング

このシナリオでは、ESXi ハイパーバイザをブレードにインストールします。

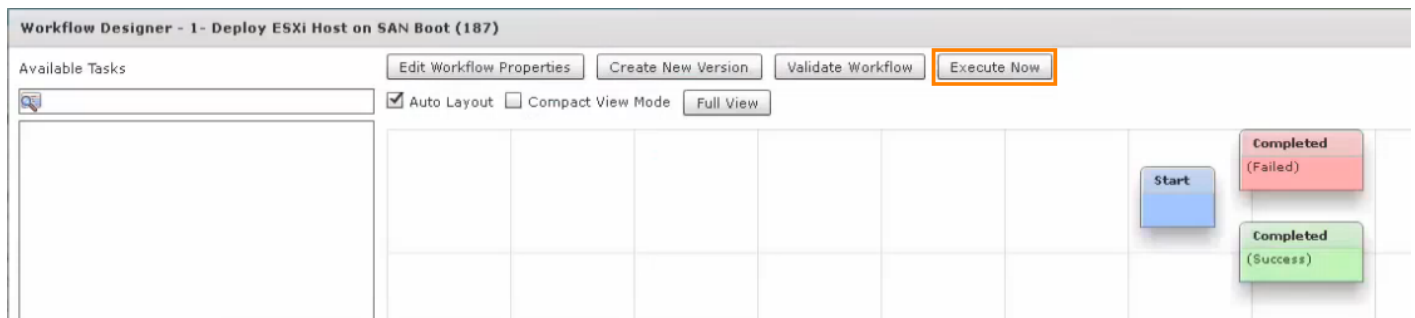
1. VersaStack ソリューションのメイン メニューで、[ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] の順に選択します。
2. [ワークフロー (Workflows)] タブで [VersaStack] フォルダを展開し、[SAN ブートへの ESXi ホストの展開 (Deploy ESXi Host on SAN Boot)] ワークフローをダブルクリックします。

図 11. 展開ワークフロー



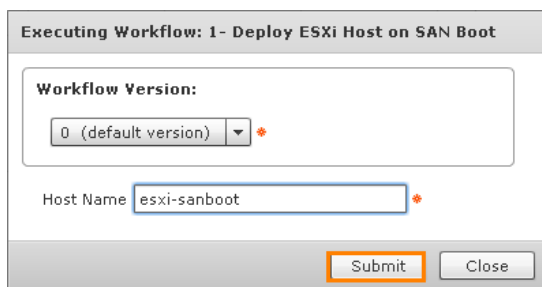
3. ワークフロー デザイナーで、[今すぐ実行 (Execute Now)] をクリックします。

図 12. 今すぐ実行 (Execute Now)



4. 表示された [ワークフローの実行 (Executing Workflow)] ウィザードで、[ホスト名 (Host Name)] フィールドに **esxi-sanboot** と入力します。

図 13. ホスト名の入力



5. [送信 (Submit)] をクリックします。
6. [詳細ステータスの表示 (Show Detail Status)] をクリックして、ワークフローの詳細を表示します。



[SAN ブートへの ESXi ホストの展開 (Deploy ESXi Host on SAN Boot)] ワークフローには次のステップが含まれます。

- 1 - 管理者が送信 (Initiated by admin) : ワークフローを開始したユーザを確認します。
- 2 - ブレードが … の dCloud セッションの取得 (Retrieve dCloud Session which Blade is …) : dCloud オートメーションに使用します。
- 3 - テンプレートからの UCS プロファイルの作成 (Create UCS Profile from template) : 事前設定済みのサービス プロファイル テンプレートから UCS サービス プロファイルを作成します。
- 4 - PXE ブートの設定 (Setup PXE Boot) : PXE サーバとサーバの詳細をマッピングし、サーバから PXE ブート ID を受信します。
- 5 - IBM Storwize ボリュームの作成 (Create IBM Storwize Volume) : IBM v7000 に新しいボリュームを作成します。
- 6 - IBM Storwize ホストの作成 (Create IBM Storwize Host) : IBM v7000 に新しいホストを作成します。
- 7 - ホストへの IBM Storwize ボリュームのマッピング (Map IBM Storwize Volume to Host) : SAN ブート用サーバに提供されるホストにボリュームをマッピングします。
- 8 - 汎用設定 SAN ゾーン分割 (Generic Configure SAN Zoning) : 両方の MDS デバイスでゾーン分割を設定します。
- 9 - UCS ブレード電源オン アクション (UCS Blade Power ON Action) : UCS ブレードの電源をオンにします。
- 10 - ESXi のインストールの待機 (Wait for ESXi to Install) : ブレード サーバに ESXi をインストールします。
- 11 - UCS サービス プロファイル ブート ポリシーの変更 (Modify UCS Service Profile Boot Policy) : SAN からブートするようにブート ポリシーを変更します。
- 12 - 管理 VLAN の追加 (Add MGMT VLAN) : 管理 VLAN をサーバ NIC に追加し、vCenter と通信できるようにします。
- 13 - UCS ブレードリセット アクション (UCS Blade Reset Action) : UCS ブレードを再起動します。
- 14 - 待機時間 (300) (Wait Duration (300)) : ブレードがブートするまで待機します。
- 15 - ホスト ノードの登録 (Register Host Node) : ノードをブレード サーバに登録します。

7. 必要に応じて、ワークフローの実行中に [ログ (Log)] タブをクリックして進捗状況の詳細を確認します。

8. 必要に応じて、UCSM でワークフローを確認します。


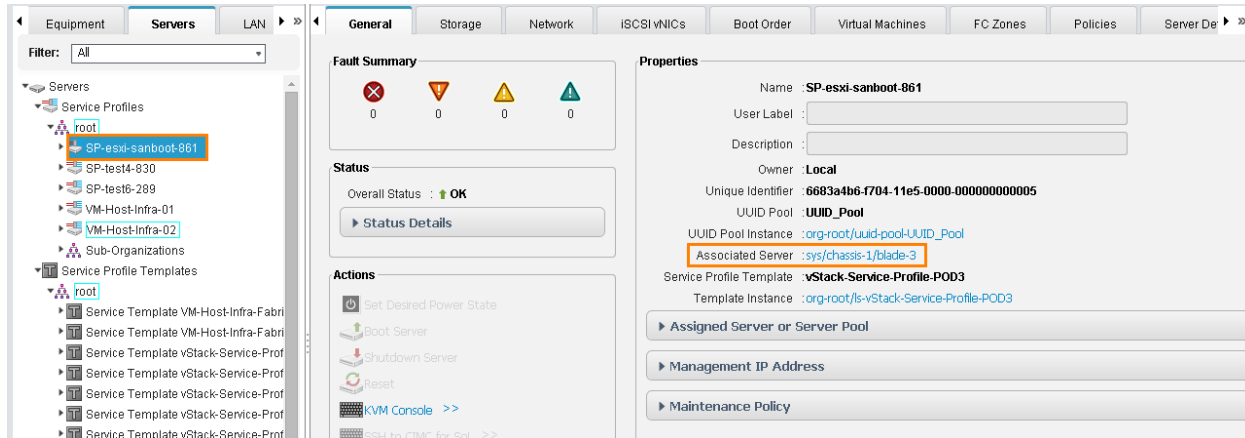
- a. デスクトップにある [Cisco UCS Manager] アイコン  をクリックして UCS Manager を起動します。
- b. Cisco UCS Manager にログインします (**demouser/C1sco12345**)。
- c. [サーバ (Servers)] タブをクリックし、[サーバ (Servers)] > [サービス プロファイル (Service Profiles)] > [root] の順に展開します。
- d. [SP-esxi-sanboot-###] をクリックし、ESXi ホストの、新しく作成されたサービス プロファイルの詳細を表示します。ブレード番号をメモします。vCenter でホスト IP アドレスを特定するときに役立ちます。

図 14. サービス プロファイルの確認



9. 新しいブラウザ タブを開き、Chrome のブックマーク バーにある [IBM v7000] ブックマークをクリックして **Storwize v7000 Storage Manager** にログインします (**demouser/C1sco12345**)。

図 15. [IBM v7000] ブックマーク



- a. [Volumes] アイコンをクリックし、表示されるメニューから [Volumes] を選択します。

図 16. [Hosts] アイコン



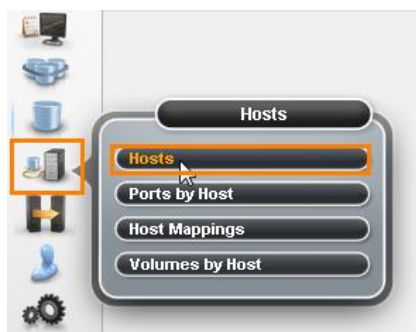
- b. **SP-esxi-sanboot-###** と関連付けられているボリュームを探し、そのパラメータを表示します。

図 17. BOOTVOL\_SP-esxi-sanboot-###

Name	State	Pool	UID	Host Mappings	Capacity
BOOTVOL_SP-esxi-sanbo...	✓ Online (formatting)	Gold	6005076400810119380000000000004A	Yes	40.00 GiB
BOOTVOL_SP-test1-759	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000044	No	40.00 GiB
BOOTVOL_SP-test2-80	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000047	Yes	40.00 GiB
BOOTVOL_SP-test6-289	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000049	No	40.00 GiB
DS-expand1-759	✓ Online	Silver_Pool	60050764008101193800000000000045	Yes	40.00 GiB
DS-expand2-80	✓ Online	Silver_Pool	60050764008101193800000000000048	Yes	40.00 GiB
DS-tungyhDS-232	✓ Online	Silver_Pool	60050764008101193800000000000040	Yes	40.00 GiB
Infra-01-LUN	✓ Online	Silver_Pool	60050764008101193800000000000011	Yes	50.00 GiB
VM-Host-Infra-01	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000000	Yes	40.00 GiB
VM-Host-Infra-02	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000001	Yes	40.00 GiB

- c. サイドメニューの [Hosts] アイコンをクリックし、表示されるメニューから [Hosts] を選択します。

図 18. [Hosts] を選択



- d. UCS Director ワークフローによって作成された新しいホスト、**SP-esxi-sanboot-###** に注目します。このホストはまだオフラインである可能性があります。状態は、UCS Director ワークフローでこのホストの電源をオンにする段階まで達しているかどうかに応じて異なります。

図 19. UCS Director ワークフローによって作成された新しいホスト

Name	Status	Host Type	# of Ports	Host Mappings
SP-esxi-sanboot-861	✓ Online	Generic	2	Yes
SP-test1-759	✗ Offline	Generic	2	No
SP-test2-80	✗ Offline	Generic	2	Yes
VM-Host-Infra-01	✓ Online	Generic	2	Yes
VM-Host-Infra-02	✗ Offline	Generic	2	Yes

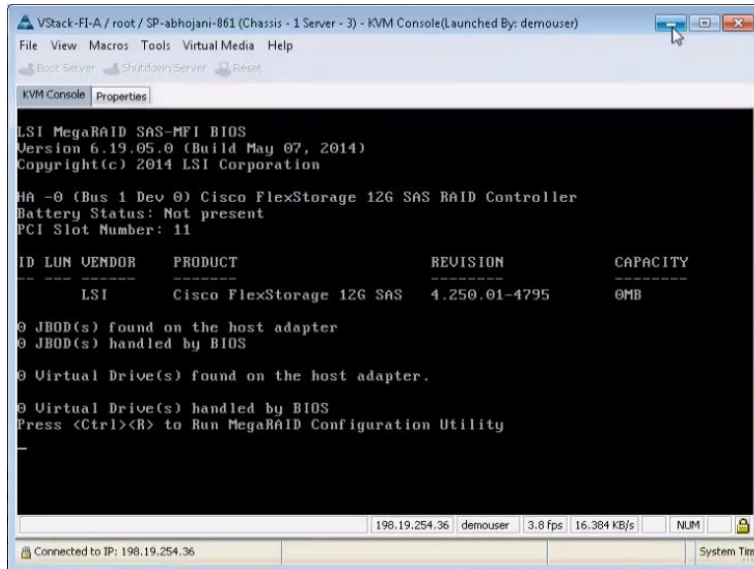
10. [Cisco UCS Director] タブに戻り、ワークフローのステップ 9([UCS ブレード電源オン アクション (UCS Blade Power ON Action)]) が完了するまで [更新 (Refresh)] をクリックします。
11. **UCS Manager** に戻ります。[サービス プロファイル (Service Profile)] ページの [一般 (General)] タブが開かれたままになっているはずです。
- a. [KVM コンソール (KVM Console)] リンクをクリックします。

図 20. [KVM コンソール (KVM Console)] リンク

The screenshot shows the Cisco UCS Manager interface for a Service Profile named 'SP-esxi-sanboot-861'. The 'General' tab is selected. On the left, the 'Actions' panel is visible, with the 'KVM Console' link highlighted by a red box. The main area displays the 'Properties' section, including 'Pending Activities', 'Name', 'User Label', 'Description', 'Owner', 'Unique Identifier', 'UUID Pool', 'UUID Pool Instance', 'Associated Server', 'Service Profile Template', and 'Template Instance'. The 'KVM Console' link is located in the 'Actions' panel under the 'Status' section.

- b. 表示されるポップアップで、[保存 (Save)] をクリックします。
- c. ダウンロード バーの `kvm.jnlp` をクリックして KVM ファイルを開きます。
- d. 警告ウィンドウで [続行 (Continue)] をクリックします。
- e. ブートアップ プロセスが進行していることを確認し、ウィンドウを最小化します。

図 21. ブートアップ プロセス



12. [Cisco UCS Director] タブに戻り、このサービス リクエストに関連するすべてのウィンドウを閉じます。このサービス リクエストの完了にはさらに 20 分ほどかかりますが、残りのプロセスを見ている必要はありません。他のシナリオを進め、必要に応じてこの画面に戻ってサービス リクエストをモニタします。

## 検証

シナリオ 7 の完了後、次のタスクを実行します。

1. UCS Director からログアウトし、管理者として再度ログインします (**admin/C1sco12345**)。
2. [組織(Organizations)] > [サービス リクエスト(Service Requests)] の順にクリックします。
3. [SAN ブートへの ESXi ホストの展開(Deploy ESXi Host on SAN Boot)] ワークフローをダブルクリックし、完了したワークフローの詳細を確認します。vSphere Client では、ホストがブレード 3 にある場合の IP アドレスは 198.19.254.23、ブレード 2 にある場合の IP アドレスは 198.19.254.22 になります。デモでは共有されている vCenter を使用するため、他の IP アドレスも表示されます。

これで、このシナリオの操作は終わりです。



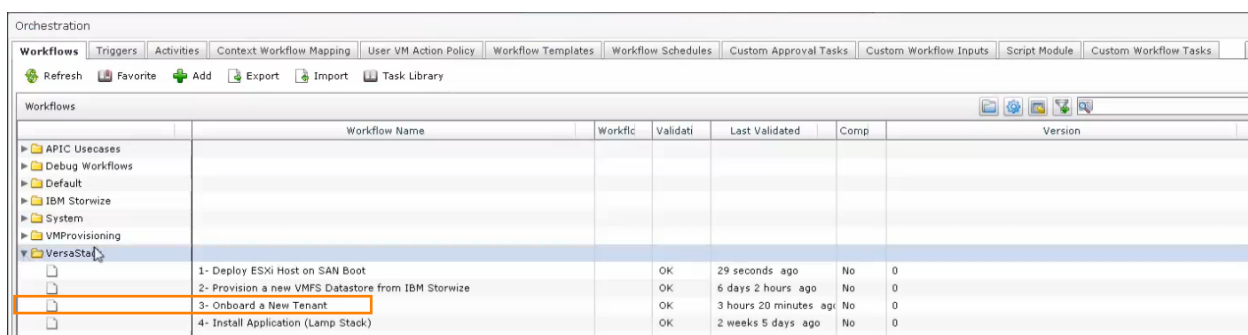
## シナリオ 3. テナント オンボーディング

このシナリオでは、テナントのオンボーディングを行います。

### ステップ

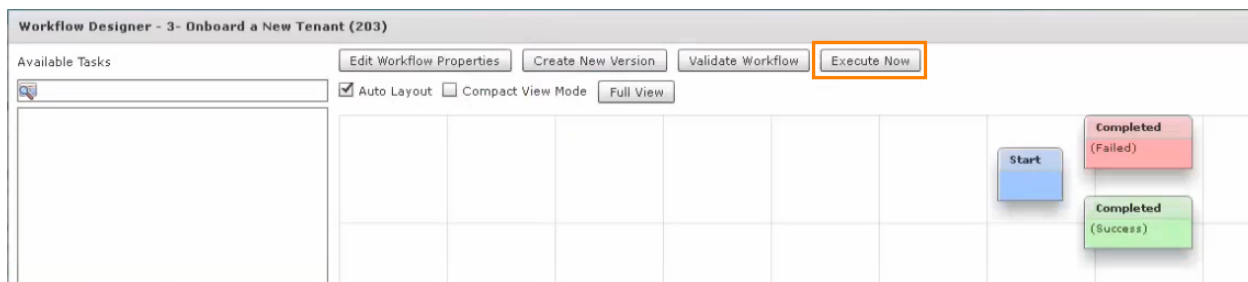
1. Cisco UCS Director ウィンドウで、メイン メニューから [ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] の順にクリックします。
2. [ワークフロー (Workflows)] ペインで、[VersaStack] フォルダを展開し、[新しいテナントのオンボーディング (Onboard a New Tenant)] ワークフローをダブルクリックします。

図 22. [新しいテナントのオンボーディング (Onboard a New Tenant)] ワークフローをダブルクリック



3. [今すぐ実行 (Execute Now)] をクリックしてワークフローを開始します。

図 23. 今すぐ実行 (Execute Now)



4. [ワークフローの実行 (Executing Workflow)] ウィンドウで、次の情報を入力します。
  - テナント名を入力します (Enter Tenant Name) : <ユーザ名>
  - テナント連絡先電子メール (Tenant Contact Email) : **cisco.com** 電子メール アドレス
  - グループ管理者ログイン名 (Group Admin Login Name) : <ユーザ名>
  - グループ管理者の名 (Group Admin First Name) : 名
  - グループ管理者の姓 (Group Admin Last Name) : 姓
5. [送信 (Submit)] をクリックします。

図 24. [ワークフローの実行(Executing Workflow)] ウィンドウ

6. [詳細ステータスの表示 (Show Detail Status)] をクリックして、ワークフローの進捗状況を表示します。



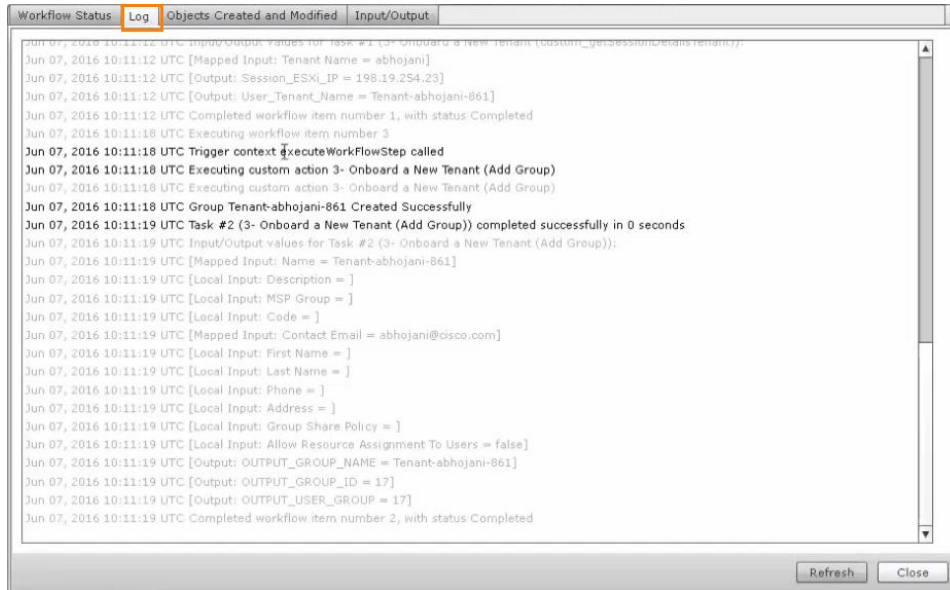
[新しいテナントのオンボーディング (Onboard a New Tenant)] ワークフローには次のステップが含まれます。

- 1 - 管理者が送信 (Initiated by admin) : ワークフローを開始したユーザを確認します。
- 2 - テナントの dCloud セッション vpod id を取得 (Retrieve dCloud Session vpod id for Tenant) :
- 3 - グループの追加 (Add Group) : ウィザードの入力内容に基づいてグループを作成します。
- 4 - グループ管理者の追加 (Add Group Admin) : ユーザとユーザの電子メール アドレスを、グループ管理者として追加します。
- 5 - VDC の作成 (Create VDC) : ユーザの VDC (UCSD 内部で作成されるテナント)を作成します。
- 6 - 電子メールの送信 (Send Email) : [テナント連絡先電子メール (Tenant Contact Email)] のアドレスに確認メールを送信します。

7. ワークフローが進行したら、[更新 (Refresh)] をクリックします。完了までにかかる時間は約 5 分です。

8. 必要に応じて、[ログ (Log)] タブをクリックしてログファイルを表示します。

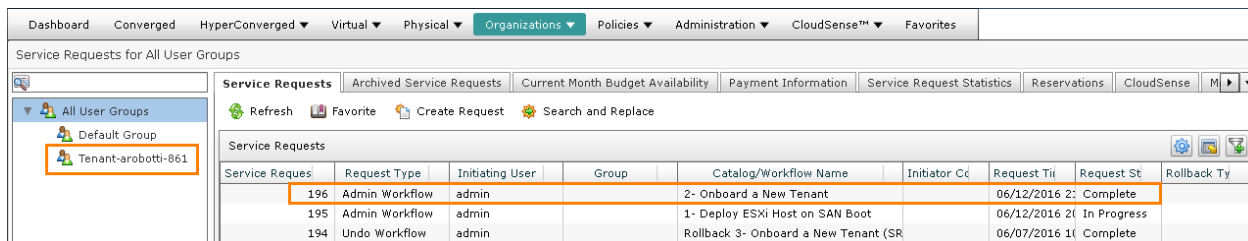
図 25. ログファイル



9. ワークフローが完了したら、[閉じる (Close)] をクリックして [ワークフロー (Workflow)] ウィンドウと [ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] ウィンドウを閉じます。

10. [組織 (Organizations)] > [サービス リクエスト (Service Requests)] の順にクリックして、新しいサービス リクエストを表示します。

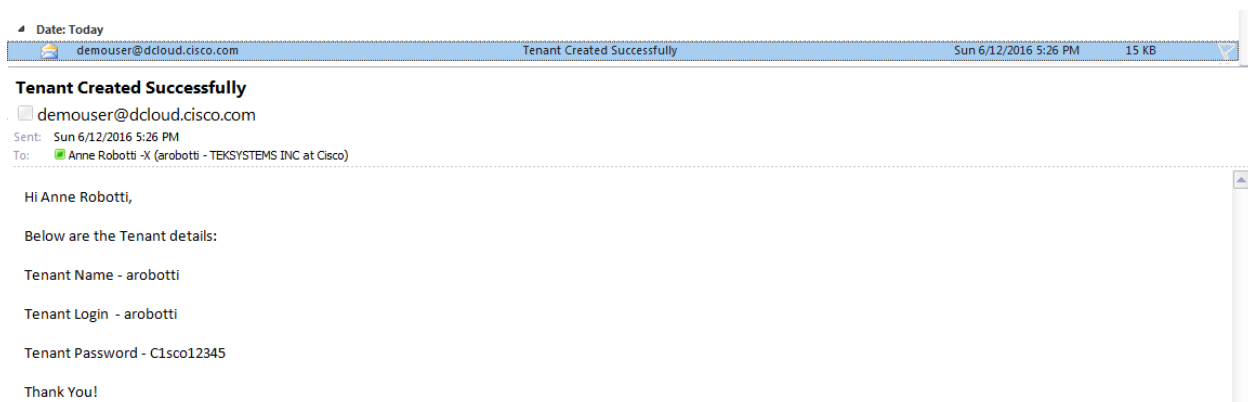
図 26. 完了したサービス リクエスト



11. 左側のメニューにある、新しく作成したテナントに注目し、完了したサービス リクエストを確認します。

12. 必要に応じて、シスコの電子メールに送信された確認メールをチェックします。

図 27. 確認メール



## 検証

ワークフローが完了していない場合、シナリオ 7 の完了後に次のタスクを実行します。

1. UCS Director からログアウトし、管理者として再度ログインします (**admin/C1sco12345**)。
2. [組織 (Organizations)] > [サービス リクエスト (Service Requests)] の順にクリックします。
3. [テナントのオンボーディング (Onboard a Tenant)] ワークフローをダブルクリックし、完了したワークフローの詳細を確認します。

これで、このシナリオの操作は終わりです。

## シナリオ 4. 新しいストレージのプロビジョニング

このシナリオでは、シナリオ 3 で作成したテナントに新しいストレージをプロビジョニングします。

### ステップ

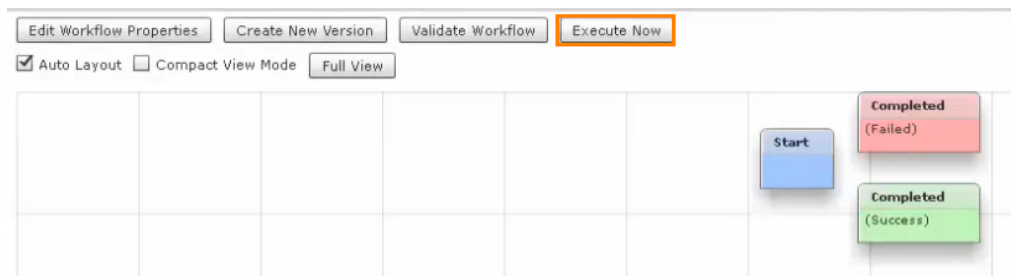
1. Cisco UCS Director のメインメニューで、[ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] の順に選択します。
2. [VersaStack] フォルダを展開し、[IBM Storwize からの新しい VMFS データストアのプロビジョニング (Provision a new VMFS Datastore from IBM Storwize)] をダブルクリックします。

図 28. [IBM Storwize からの新しい VMFS データストアのプロビジョニング (Provision a new VMFS Datastore from IBM Storwize)] をダブルクリック

Workflow Name	Workflc	Validati	Last Validated	Comp
1- Deploy ESXi Host on SAN Boot		OK	3 minutes 50 seconds ago	No 0
2- Provision a new VMFS Datastore from IBM Storwize		OK	6 days 2 hours ago	No 0
3- Onboard a New Tenant		OK	1 minute 42 seconds ago	No 0
4- Install Application (Lamp Stack)		OK	2 weeks 5 days ago	No 0

3. [今すぐ実行 (Execute Now)] をクリックしてワークフローを開始します。

図 29. ワークフローの実行



4. [テナントを選択します (Select Tenant)] ドロップダウンをクリックし、新しく作成したテナントを選択します。
5. [データストア名 (Datastore Name)] フィールドに **expansion** と入力します。
6. [送信 (Submit)] をクリックします。

図 30. ワークフローの送信

Executing Workflow: 3- Provision a new VMFS Datastore from IBM Storwize

Workflow Version:  
0 (default version) \*

Select Tenant: Tenant-arobotti-861 \*

Datastore Name: expansion \*


Submit Close

7. [詳細ステータスの表示 (Show Detail Status)] をクリックして、ワークフローの詳細を確認します。



[IBM Storwize からの新しい VMFS データストアのプロビジョニング (Provision a new VMFS Datastore from IBM Storwize)] ワークフローには次のステップが含まれます。

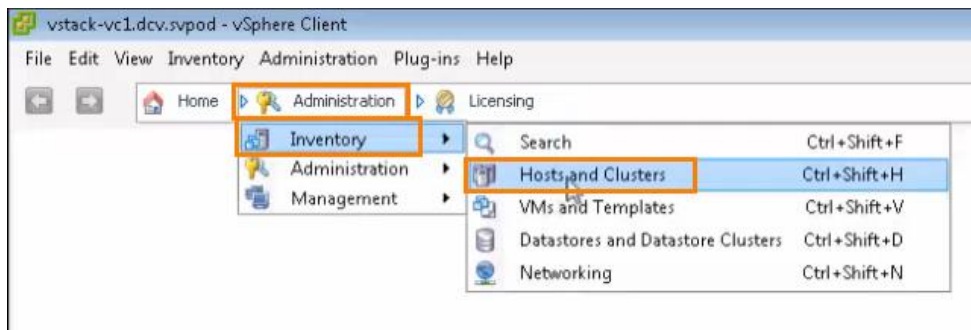
- 1 - 管理者が送信 (Initiated by admin) : ワークフローを開始したユーザを確認します。
- 2 - テナントの dCloud セッション vpod id を取得 (Retrieve dCloud Session vpod id for Tenant) :
- 3 - IBM Storwize ボリュームの作成 (Create IBM Storwize Volume) : ストレージ ボリュームを作成し、VSAN 上のホストにマッピングします。
- 4 - IBM Storwize ブロック ボリューム データストア (IBM Storwize Block Volume Datastore) :
- 5 - ストレージ ポリシーの作成 (Create Storage Policy) : ストレージ ボリュームをテナントに関連付けるストレージ ポリシーを作成します。

8. ワークステーション タスクバーの [VMware vSphere] アイコン  を右クリックして [VMware vSphere Client] を選択し、vSphere ウィンドウをもう 1 つ開きます。

9. ログインします (**demouser@dcv.svpod/C1sco12345**)。

- a. ロケーション バーで、[インベントリ (Inventory)] > [ホストとクラスタ (Hosts and Clusters)] の順に選択します。

図 31. [ホストとクラスタ (Hosts and Clusters)] まで移動



b. [vstack-vc1.dcv.svpod] > [dCloud] の順に展開し、ホストの一覧にある [198.19.254.28] をクリックします。

c. 拡張データストアが作成されていることを示します。

図 32. 拡張データストア

198.19.254.28 VMware ESXi, 6.0.0, 3073146

Summary Virtual Machines Resource Allocation Performance Configuration Tasks & Events Alarms Permissions Maps

**General**

Manufacturer: Cisco Systems Inc  
 Model: UCSB-B200-M4  
 CPU Cores: 24 CPUs x 2.294 GHz  
 Processor Type: Intel(R) Xeon(R) CPU E5-2670 v3 @ 2.30GHz  
 License: VMware vSphere 6 Enterprise Plus - Licensed for 2 physic...  
 Processor Sockets: 2  
 Cores per Socket: 12  
 Logical Processors: 48  
 Hyperthreading: Active  
 Number of NICs: 2  
 State: Connected  
 Virtual Machines and Templates: 8  
 vMotion Enabled: No  
 VMware EVC Mode: Disabled  
 vSphere HA State: N/A

**Resources**

CPU usage: 282 MHz Capacity 24 x 2.294 GHz  
 Memory usage: 10071.00 MB Capacity 261878.40 MB

Storage	Status	Drive Type
datastore1 (1)	Normal	Non-SSD
D5-expand1-759	Normal	Non-SSD
D5-expand2-80	Normal	Non-SSD
D5-expansion-861	Normal	Non-SSD
ISO	Normal	Non-SSD

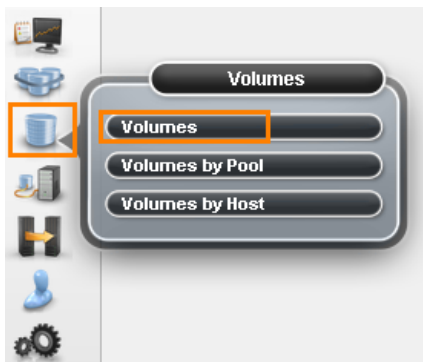
**Network**

Network	Type	Sta
VM Network	Standard port group	✓
dcloud internal	Standard port group	✓

10. [Vstack-V7000 – Hosts] ブラウザ タブをクリックし、[IBM v7000] タブに戻ります。

11. [Volumes] アイコンをクリックし、メニューから [Volumes] を選択します。

図 33. [Volumes] を選択



12. 新しく作成された拡張ストレージ ボリュームが存在し、ストレージ プールの一部になっていることを確認します (ボリュームはまだフォーマット中場合があります)。

図 34. 新しく作成されたストレージ ボリューム

Name	State	Pool	UID	Host Mappings	Capacity
BOOTVOL_SP-demo-861	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000051	Yes	40.00 GiB
BOOTVOL_SP-rollback1-80	✓ Online (formatting)	Gold	60050764008101193800000000000056	No	40.00 GiB
BOOTVOL_SP-test1-759	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000044	No	40.00 GiB
BOOTVOL_SP-test4-423	✓ Online	Gold	6005076400810119380000000000004D	Yes	40.00 GiB
BOOTVOL_SP-test6-289	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000049	No	40.00 GiB
DS-expand1-759	✓ Online	Silver_Pool	60050764008101193800000000000045	Yes	40.00 GiB
DS-expand4-423	✓ Online	Silver_Pool	6005076400810119380000000000004F	Yes	40.00 GiB
DS-expansion-861	✓ Online	Silver_Pool	6005076400810119380000000000004B	Yes	40.00 GiB
DS-tungyhDS-232	✓ Online	Silver_Pool	60050764008101193800000000000040	Yes	40.00 GiB
Infra-01-LUN	✓ Online	Silver_Pool	60050764008101193800000000000011	Yes	50.00 GiB
VM-Host-Infra-01	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000000	Yes	40.00 GiB
VM-Host-Infra-02	✓ Online	Gold	60050764008101193800000000000001	Yes	40.00 GiB

13. [Cisco UCS Director] タブに戻り、このサービス リクエストに関連するウィンドウを閉じます。

これで、このシナリオの操作は終わりです。

## シナリオ 5. 仮想マシンの注文

このシナリオでは、新しいテナント管理者として Cisco UCS Director にログインし、VM を注文します。

### ステップ


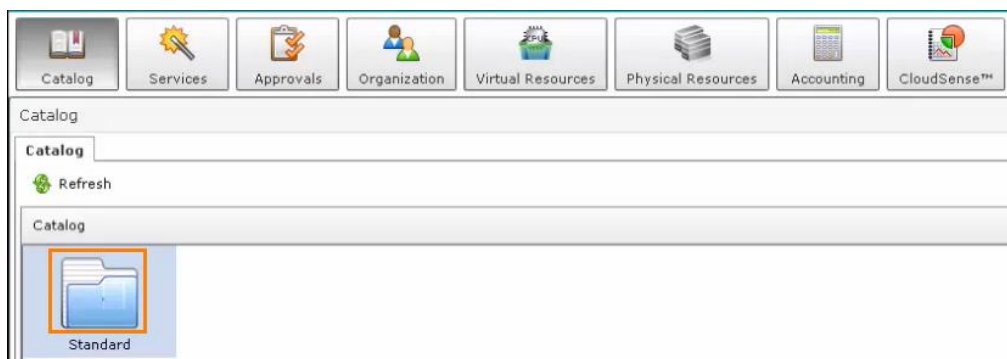
1. Internet Explorer ブラウザ  を開き、すべてのセキュリティ警告を無視して続行します。
2. シナリオ 3 で使用した [グループ管理者ログイン名 (Group Admin Login Name)], つまり作成したアカウントで **VersaStack ソリューション** にログインします。

図 35. VersaStack ソリューションへのログイン



3. [標準 (Standard)] フォルダをダブルクリックし、このユーザが使用可能なワークフローを表示します。

図 36. [標準 (Standard)] フォルダ



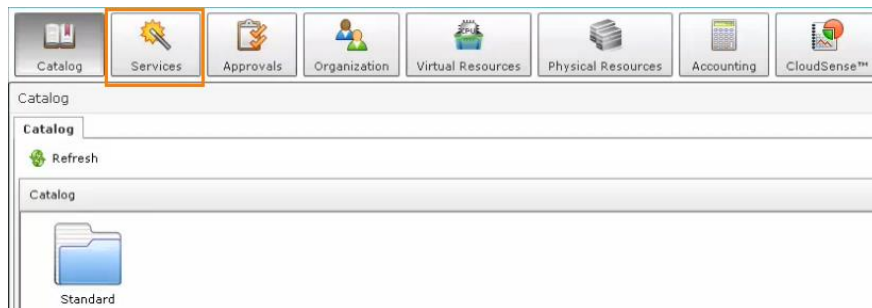
4. [CentOS6 dCloud-VCenter] ワークフローをダブルクリックします。
5. ワークフロー ウィザードで次のステップを実行します。
  - a. [カタログの選択 (Catalog Selection)] ウィンドウで [次へ (Next)] をクリックします。変更は不要です。
  - b. [導入設定 (Deployment Configuration)] ウィンドウで [次へ (Next)] をクリックします。変更は不要です。
  - c. [カスタム仕様 (Custom Specification)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックするかメモリの量を変更します。変更は [SR コスト見積 (SR Cost Estimate)] で確認できます。[メモリ (Memory)] に変更を加えた場合は、続行する前に 512.0 Mb に戻します。



- d. [カスタム ワークフロー (Custom Workflow)] ウィンドウで [次へ (Next)] をクリックします。
- e. [送信 (Submit)] をクリック後、[OK] をクリックします。

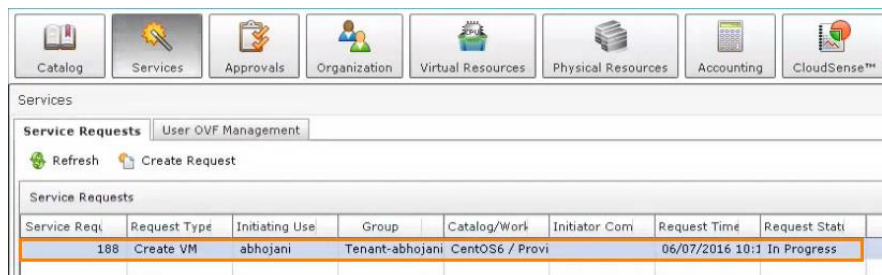
6. トップメニューの [サービス (Services)] をクリックします。

図 37. サービス (Services)



7. 新しいサービス リクエストをダブルクリックします。

図 38. 新しいサービス リクエスト



[VMware VM のプロビジョニング (Provision VMware VM)] ワークフローには次のステップが含まれます。

- 1 - 管理者が送信 (Initiated by admin) : ワークフローを開始したユーザを確認します。
- 2 - VM プロビジョニングの入力値 (VM Provision Inputs) : [サービス リクエスト (Service Request)] ウィザードから入力値を取得します。
- 3 - 予算の割り当て (Budget Allocation) : VM を要求しているグループに予算の監視が必要かどうかを決定します。
- 4 - リソース制限 (Resource Limit) : VM を要求しているグループにリソース制限が適用されるかどうかを決定します。
- 5 - VMware リソースの割り当て (VMware Resource Allocation) :
- 6 - 承認 (Approval) : 必要に応じて管理者の承認を要求する、ワークフローの承認ステップ。
- 7 - 承認 (Approval) : 必要に応じて管理者の承認を要求する、ワークフローの承認ステップ。
- 8 - VMware VM のプロビジョニング (VMware VM Provision) : VM をプロビジョニングします。
- 9 - ゲスト パスワードのリセット (Guest Password Reset) : パスワードをデモ パスワード (C1sco12345) にリセットします。
- 10 - 通知 (Notification) : ワークフローが完了したことをユーザに通知します。

8. 必要に応じて、Chrome で開いて管理者としてログインしている [Cisco UCS Director] タブに戻ります。

9. [組織 (Organizations)] > [サービス リクエスト (Service Requests)] の順にクリックし、自身のユーザ名において開始したワークフローをダブルクリックします。

図 39. ワークフローをダブルクリック

Service Reques	Request Type	Initiating User	Group	Catalog/Workflow Name	Initiator Co	Request Ti	Request St	Rollback Ty
198	Create VM	arobotti	Tenant-arobotti-861	CentOS6 / Provision VMware VM		06/12/2016 2:	In Progress	
197	Admin Workflow	admin		3- Provision a new VMFS Datastore fro		06/12/2016 2:	Complete	
196	Admin Workflow	admin		2- Onboard a New Tenant		06/12/2016 2:	Complete	

注: サイドメニューのテナント名をクリックすると、[サービス リクエスト (Service Requests)] 一覧にフィルタが適用され、そのテナントが開始したサービス リクエストのみが表示されます。

10. VMware vSphere ウィンドウに戻ります。

11. [Inventory] > [Hosts and Clusters] ウィンドウで、新しく作成された VM をクリックし、プロビジョニングの詳細を確認します。

図 40. 新しい VM をクリック

vm-Tenant-arobotti-861-SR198

General	Resources
Guest OS: CentOS 4/5/6/7 (64-bit)	Consumed Host CPU: 0 MHz
VM Version: 8	Consumed Host Memory: 256.00 MB
CPU: 1 vCPU	Active Guest Memory: 384.00 MB
Memory: 512 MB	Provisioned Storage: 16.66 GB
Memory Overhead:	Not-shared Storage: 1.82 GB
VMware Tools: Running (Out-of-date)	Used Storage: 2.50 GB
IP Addresses: 192.168.80.27	Storage
DNS Name: vm-Tenant-arobotti-861-SR198	DS-expansion-861
EVC Mode: N/A	Status: Normal
State: Powered On	Drive Type: Non-SSD
Host: 198.19.254.28	Network
Active Tasks:	dcloud internal
vSphere HA Protection: N/A	Type: Standard port group

12. [Cisco UCS Director] タブ (Internet Explorer) に戻り、ワークフローが完了するまで (3 ~ 4 分程度) [更新 (Refresh)] をクリックします。

13. ワークフローに関連するすべてのウィンドウを閉じます。

14. 次に進む前に、サービス リクエストのステータスが [完了 (Complete)] になっていることを確認します (必要に応じて更新します)。

図 41. 完了したサービス リクエスト

Service Request	Request Type	Initiating User	Group	Catalog/Workflow	Initiator Comment	Request Time	Request Status	Rollback Type
198	Create VM	arobotti	Tenant-arobotti-861	CentOS6 / Provision		06/12/2016 21:51:0	Complete	

これで、このシナリオの操作は終わりです。

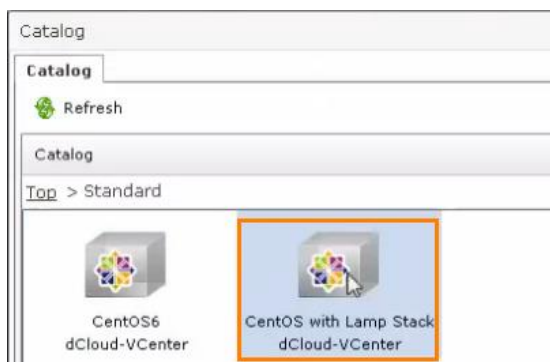
## シナリオ 6. LAMP スタック アプリケーションの注文

このシナリオでは、新しく作成したテナントに VM と LAMP スタック アプリケーションを展開します。

### ステップ

1. Cisco UCS Director にログインした状態の IE ブラウザで、[カタログ (Catalog)] ボタンをクリックします。
2. [標準 (Standard)] フォルダをダブルクリックし、このユーザが使用可能なワークフローを表示します。
3. [CentOS と LAMP スタック dCloud-vCenter (CentOS with Lamp Stack dCloud-vCenter)] ワークフローをダブルクリックします。

図 42. [CentOS と LAMP スタック dCloud-vCenter (CentOS with Lamp Stack dCloud-vCenter)] ワークフロー



4. 表示されるウィザードで次のステップを実行します。
  - a. [カタログの選択 (Catalog Selection)] 画面で [次へ (Next)] をクリックします。変更は不要です。
  - b. [導入設定 (Deployment Configuration)] 画面で [次へ (Next)] をクリックします。変更は不要です。
  - c. [カスタム仕様 (Custom Specification)] 画面で [次へ (Next)] をクリックします。変更は不要です。
  - d. [カスタム ワークフロー (Custom Workflow)] 画面で、[MySQL の root パスワード (MySQL Root Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力します。
  - e. [次へ (Next)] をクリックします。
  - f. [送信 (Submit)]、[OK] の順にクリックしてワークフローを開始します。
5. UCS Director メニューで [サービス (Services)] をクリックします。
6. 進行中の [VMware VM のプロビジョニング (Provision VMware VM)] ワークフローをダブルクリックします。

図 43. サービス リクエストをダブルクリック

Service Reql	Request Type	Initiating User	Group	Catalog/Work	Initiator Com	Request Time	Request Stati	Rollback Type
199	Create VM	arobotti	Tenant-arobotti-	Provision VMwar		06/12/2016 21:5	In Progress	
198	Create VM	arobotti	Tenant-arobotti-	CentOS6 / Provi		06/12/2016 21:5	Complete	



この [VMware VM のプロビジョニング (Provision VMware VM)] ワークフローには次のステップが含まれます。

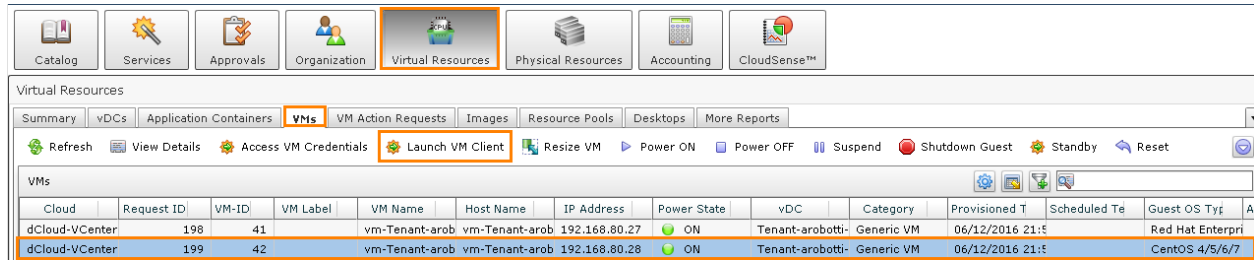
- 1 - 管理者が送信 (Initiated by admin) : ワークフローを開始したユーザを確認します。
- 2 - VM プロビジョニングの入力値 (VM Provision Inputs) : [サービス リクエスト (Service Request)] ウィザードから入力値を取得します。
- 3 - 予算の割り当て (Budget Allocation) : VM を要求しているグループに予算の監視が必要かどうかを決定します。
- 4 - リソース制限 (Resource Limit) : VM を要求しているグループにリソース制限が適用されるかどうかを決定します。
- 5 - VMware リソースの割り当て (VMware Resource Allocation) :
- 6 - 承認 (Approval) : 必要に応じて管理者の承認を要求する、ワークフローの承認ステップ。
- 7 - 承認 (Approval) : 必要に応じて管理者の承認を要求する、ワークフローの承認ステップ。
- 8 - VMware VM のプロビジョニング (VMware VM Provision) : VM をプロビジョニングします。
- 9 - ゲスト パスワードのリセット (Guest Password Reset) : デフォルトの CS パスワードを C1sco12345 にリセットします。
- 10 - 通知 (Notification) : ワークフローが完了したことをユーザに通知します。
- 11 - VIX スクリプト (VIX Script) :

7. ステップ 5 が完了したら、vSphere に戻って新しい VM があることを示します。

図 44. UCS Director ワークフローによって作成された新しい VM

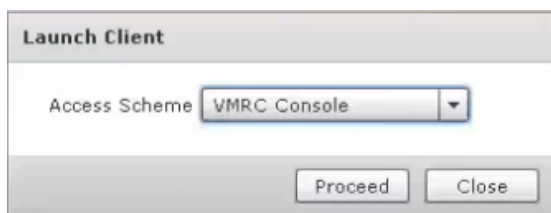
8. ワークフローがすべて完了するまで更新します。
9. [サービス リクエスト (Service Request)] ウィンドウを閉じます。
10. Chrome ブラウザで **Cisco UCS Director** に戻り、ログアウトします。
11. シナリオ 3 で作成したテナント ID とパスワード **C1sco12345** を使用して、VersaStack ソリューションに再度ログインします。
12. トップ メニューの [仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックします。
13. [VM (VMs)] タブをクリックします。
14. 最近作成された CentOS VM をクリックし、[VM クライアントの起動 (Launch VM Client)] ボタンをクリックして LAMP スタック アプリケーションを表示します。

図 45. VM クライアントの起動(Launch VM Client)



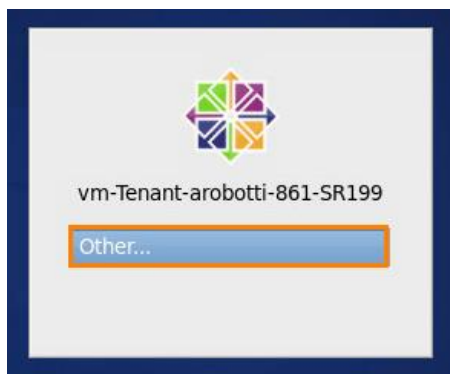
15. [アクセス スキーム (Access Scheme)] ドロップダウンから [VMRC コンソール (VMRC Console)] を選択し、[続行 (Proceed)] をクリックします。

図 46. [VMRC コンソール (VMRC Console)] を選択



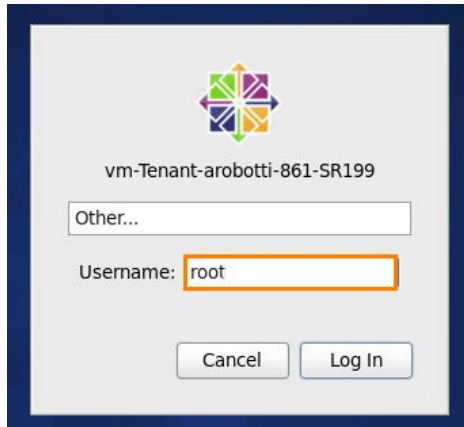
16. VMRC ログイン画面で [その他 (Other)] をクリックします。

図 47. [その他 (Other)] をクリック



17. [ユーザ名 (Username)] フィールドに **root** と入力し、[ログイン (Log In)] をクリックします。

図 48. VMRC にログイン



18. [パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力し、再度 [ログイン (Log In)] をクリックします。

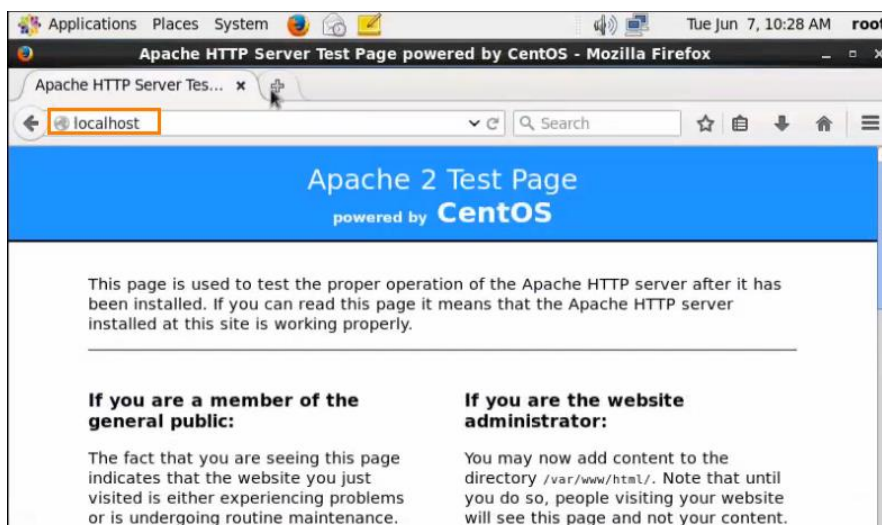
19. VM テナントのデスクトップで、[Firefox] アイコンをクリックしてブラウザを開きます。

図 49. Firefox ブラウザを開く



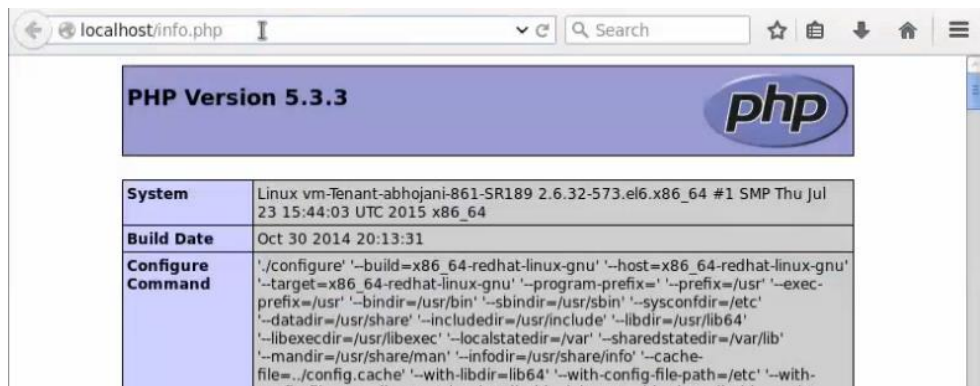
20. ロケーション バーに **localhost** と入力し、Apache 2 テスト ページが表示されることを確認します。

図 50. Apache 2 テスト ページ



21. 2 つ目のブラウザ タブを開き、ロケーション バーに **localhost/info.php** と入力して PHP バージョンの詳細を確認します。

図 51. PHP の詳細



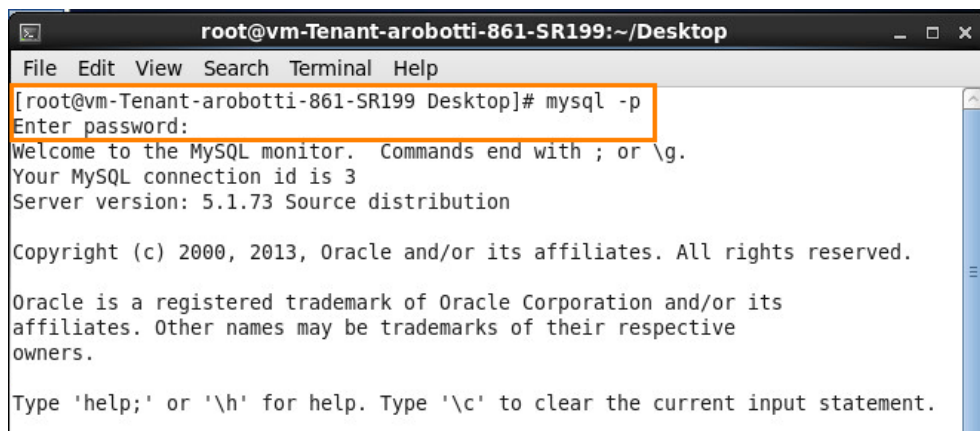
22. Firefox ウィンドウを最小化します。

23. デスクトップを右クリックし、表示されるメニューから [ターミナルで開く (Open in Terminal)] を選択します。

24. 表示されるウィンドウのプロンプトに **mysql -p** と入力します。

25. シナリオ 4 でデータベース用に選択したパスワード (**C1sco12345**) を入力します。

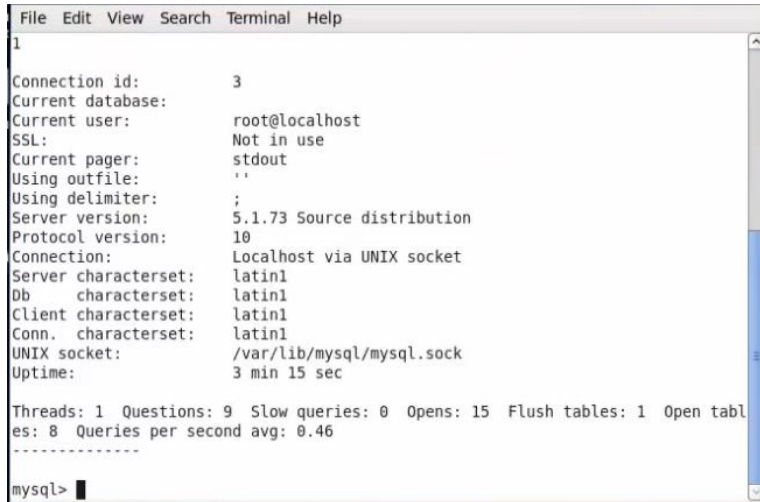
図 52. ターミナル ウィンドウのコマンド



26. コマンド プロンプトに **status** と入力し、標準のステータス出力を表示します。



図 53. ステータス出力

A screenshot of a terminal window with a menu bar (File, Edit, View, Search, Terminal, Help) and a title bar. The terminal displays the output of the 'status' command in MySQL. The output includes connection details like 'Connection id: 3', 'Current user: root@localhost', and server information like 'Server version: 5.1.73 Source distribution'. At the bottom, it shows performance statistics: 'Threads: 1 Questions: 9 Slow queries: 0 Opens: 15 Flush tables: 1 Open tables: 8 Queries per second avg: 0.46'. The prompt 'mysql>' is visible at the bottom left.

```
File Edit View Search Terminal Help
1
Connection id:          3
Current database:
Current user:          root@localhost
SSL:                  Not in use
Current pager:        stdout
Using outfile:         ''
Using delimiter:      ;
Server version:       5.1.73 Source distribution
Protocol version:    10
Connection:          Localhost via UNIX socket
Server characterset: latin1
Db characterset:     latin1
Client characterset: latin1
Conn. characterset:  latin1
UNIX socket:         /var/lib/mysql/mysql.sock
Uptime:              3 min 15 sec

Threads: 1 Questions: 9 Slow queries: 0 Opens: 15 Flush tables: 1 Open tabl
es: 8 Queries per second avg: 0.46
-----
mysql>
```

27. [VMRC コンソール (VMRC Console)] タブを閉じます。

これで、このシナリオの操作は終わりです。



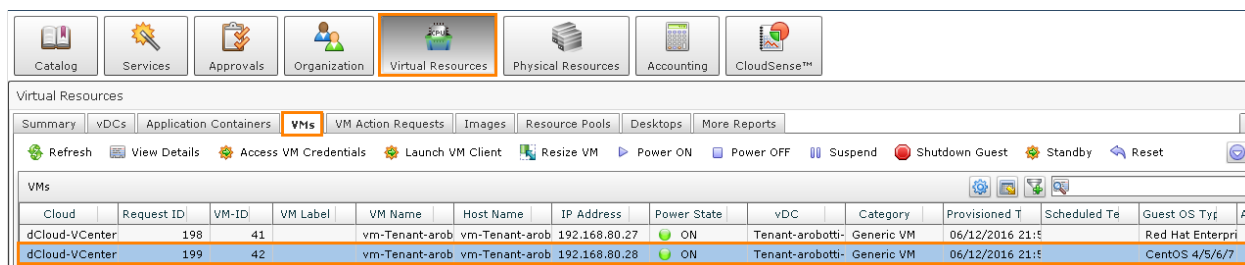
## シナリオ 7. VM ライフサイクル管理

このシナリオの目的は、VM の電源のオン/オフやサイズ変更を行い、その他の管理機能を実行することで、VersaStack ソリューションでの VM 管理に慣れることです。

### ステップ

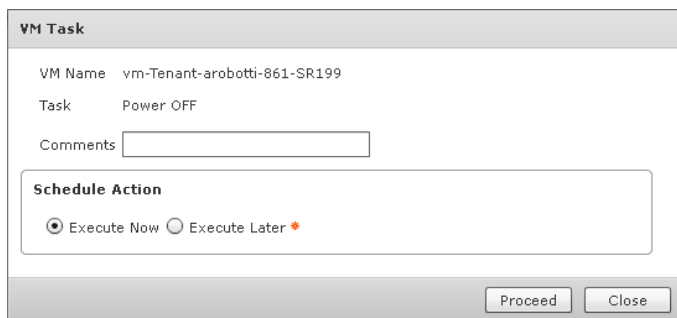
1. Chrome で、VersaStack ソリューション ([Cisco UCS Director] タブ) に (シナリオ 3 で作成した) ユーザとしてログインしていない場合は、ここでログインします。
2. [仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックし、[VM (VMs)] タブをクリックして、このユーザが管理できる VM をすべて表示します。

図 54. すべての VM の表示



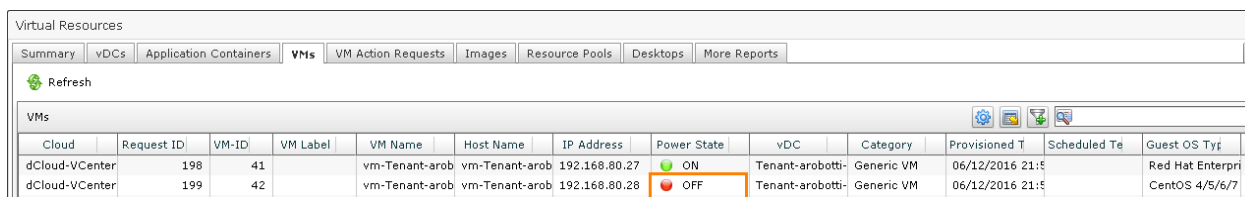
3. VM を選択し、[電源オフ (Power OFF)] ボタンをクリックします。
4. 表示される [VM タスク (VM Task)] ポップアップで、[続行 (Proceed)] をクリックします。

図 55. VM の電源オフ



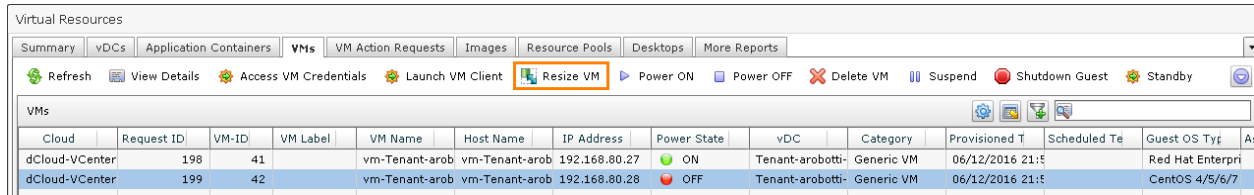
5. 確認のためのポップアップで [OK] をクリックします。
6. VM の電源がオフであることを確認します。

図 56. VM の電源がオフの状態



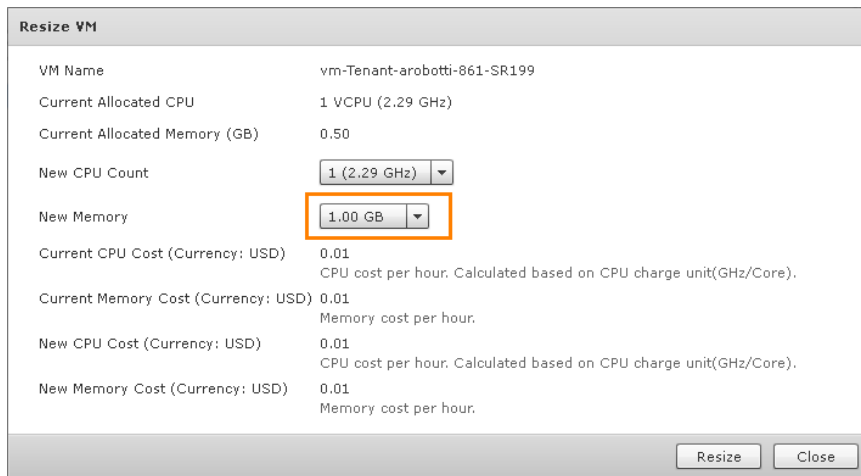
7. 再度 VM をクリックし、[VM のサイズ変更 (Resize VM)] ボタンをクリックします。

図 57. VM のサイズ変更 (Resize VM)



8. 表示されるダイアログボックスで、[新しいメモリ (New Memory)] ドロップダウンから [1.00 GB] を選択します。

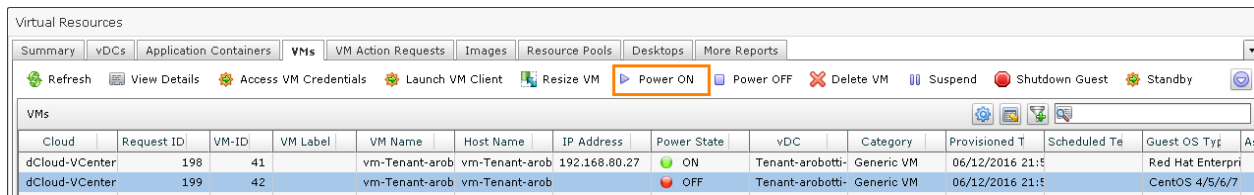
図 58. メモリを 1.00 GB に変更



9. [サイズ変更 (Resize)] をクリックして [OK] をクリックします。

10. 再度 VM を選択し、[電源オン (Power ON)] をクリックします。

図 59. VM の電源オン



11. [続行 (Proceed)] をクリックして [OK] をクリックします。

12. VM の [電源の状態 (Power State)] が [オン (ON)] になっていることを確認します。

13. 実稼働システムの VM で実行できるその他の操作について説明します。

これで、このシナリオの操作は終わりです。

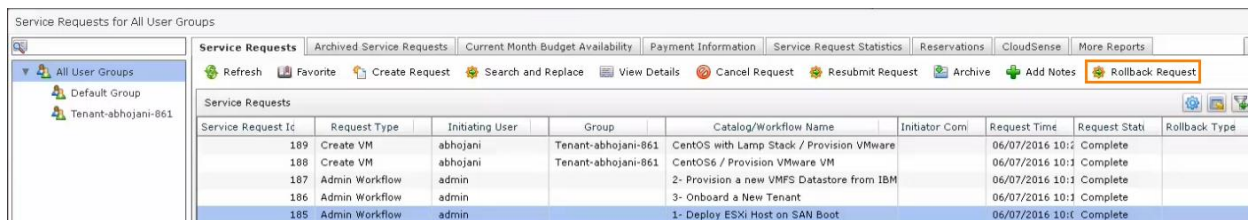
## 付録 A. タスクのロールバック

お客様に対してシナリオを繰り返す場合は、まずタスクをロールバックし、それから記載どおりにシナリオを実行します。

### ステップ

1. VersaStack ソリューションに管理者としてログインします (**admin/C1sco12345**)。
2. [組織 (Organizations)] > [サービス リクエスト (Service Requests)] の順にクリックします。
3. 目的のタスクをクリックし、[リクエストのロールバック (Rollback Request)] をクリックします。

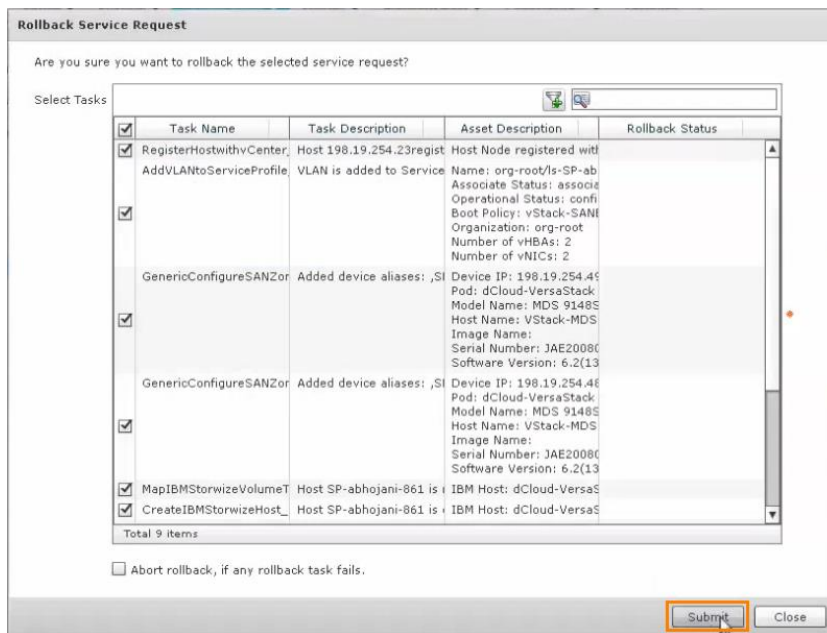
図 60. リクエストのロールバック (Rollback Request)



Service Request Id	Request Type	Initiating User	Group	Catalog/Workflow Name	Initiator Com	Request Time	Request Stati	Rollback Type
189	Create VM	abhojani	Tenant-abhojani-861	CentOS with Lamp Stack / Provision VMware		06/07/2016 10:1	Complete	
188	Create VM	abhojani	Tenant-abhojani-861	CentOS6 / Provision VMware VM		06/07/2016 10:1	Complete	
187	Admin Workflow	admin		2- Provision a new VMFS Datastore from IBM		06/07/2016 10:1	Complete	
186	Admin Workflow	admin		3- Onboard a New Tenant		06/07/2016 10:1	Complete	
185	Admin Workflow	admin		1- Deploy ESXi Host on SAN Boot		06/07/2016 10:1	Complete	

4. [送信 (Submit)] をクリックします。

図 61. リクエストのロールバックの送信



Are you sure you want to rollback the selected service request?

Select Tasks

Task Name	Task Description	Asset Description	Rollback Status
<input checked="" type="checkbox"/> RegisterHostwithvCenter_	Host 198.19.254.23regist	Host Node registered with	
<input checked="" type="checkbox"/> AddVLANtoServiceProfile	VLAN is added to Service	Name: org-root/ls-SP-ab Associate Status: associe Operational Status: confi Boot Policy: vStack-SAN Organization: org-root Number of vHBAs: 2 Number of vNICs: 2	
<input checked="" type="checkbox"/> GenericConfigureSANZor	Added device aliases: ,SI	Device IP: 198.19.254.46 Pod: dCloud-VersaStack Model Name: MDS 9148S Host Name: VStack-MDS Image Name: Serial Number: JAE20080 Software Version: 6.2(13	
<input checked="" type="checkbox"/> GenericConfigureSANZor	Added device aliases: ,SI	Device IP: 198.19.254.46 Pod: dCloud-VersaStack Model Name: MDS 9148S Host Name: VStack-MDS Image Name: Serial Number: JAE20080 Software Version: 6.2(13	
<input checked="" type="checkbox"/> MapIBMstorwizeVolumeE	Host SP-abhojani-861 is	IBM Host: dCloud-VersaS	
<input checked="" type="checkbox"/> CreateIBMstorwizeHost_	Host SP-abhojani-861 is	IBM Host: dCloud-VersaS	

Total 9 items

Abort rollback, if any rollback task fails.

5. [ワークフローを元に戻す (Undo Workflow)] タスクのステータスが [完了 (Complete)] になるまで [更新 (Refresh)] をクリックします。

図 62. 完了したロールバック タスク

Service Request Id	Request Type	Initiating User	Group	Catalog/Workflow Name	Initiator Com	Request Time	Request Stati	Rollback Type
190	Undo Workflow	admin		Rollback 1- Deploy ESXi Host on SAN Boot (S		06/07/2016 10:03	Submitted	
189	Create VM	abhojani	Tenant-abhojani-861	CentOS with Lamp Stack / Provision VMware		06/07/2016 10:03	Complete	
188	Create VM	abhojani	Tenant-abhojani-861	CentOS6 / Provision VMware VM		06/07/2016 10:03	Complete	
187	Admin Workflow	admin		2- Provision a new VMFS Datastore from IBM		06/07/2016 10:03	Complete	
186	Admin Workflow	admin		3- Onboard a New Tenant		06/07/2016 10:03	Complete	
185	Admin Workflow	admin		1- Deploy ESXi Host on SAN Boot		06/07/2016 10:03	Complete	Complete Rollba

6. 必要に応じてタスクを再度実行します。シナリオの完了回数とロールバック回数に制限はありません。

©2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2016年8月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。

お問い合わせ先



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>